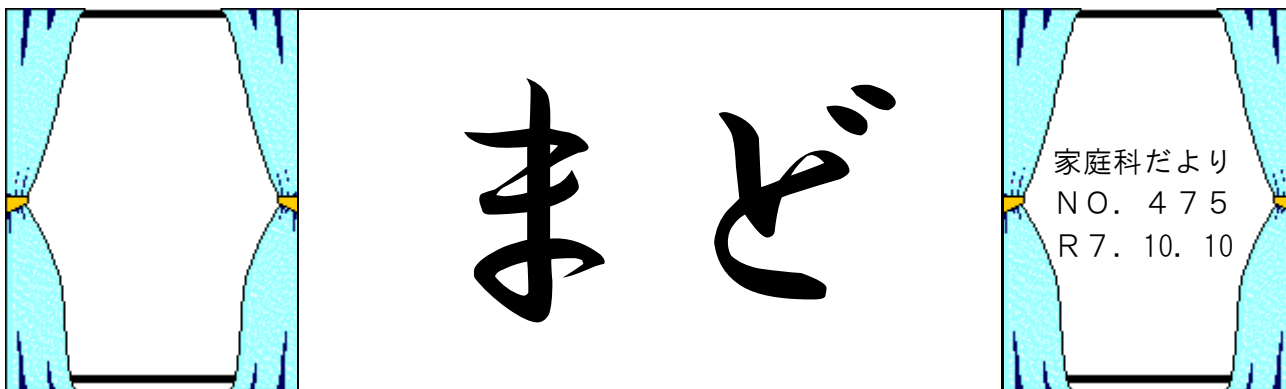




「育成を目指す資質・能力」を意識できる工夫を

今年度、教育センターでは「令和7年度 はまつの教育『授業改善リーフレット』」を作成し、学校訪問や各種研修において示しています。概略としては2点、今求められる学びの実現に向けて、「試行錯誤しながら自律的に学ぶ子供」を育成するために、子供に学びを委ねること。そして、子供の思いに寄り添いつつ、子供の学びが深まるように教師が指導性を発揮することです。

その教師の指導性の発揮として、まずは「試行錯誤しながら自律的に学ぶ子供」の姿をイメージした上で、題材や授業をデザインすることが挙げられます。家庭科の題材をデザインする上で大切なことは、右の学習過程に沿ったものになっているかということです。

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
既習の知識及び技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見だし、解決すべき課題を設定する	生活に関わる知識及び技能を習得し、解決方法を検討する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる知識及び技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う	実践した結果を評価する	結果を発表し、改善策を検討する	改善策を家庭・地域で実践する

付ける」ための学習過程です。

さて、題材を構想するにあたっては、この学習で身に付けたい資質・能力を教師も子供も意識できるよう工夫することが求められます。ワークシートに書き込んだり、掲示したりすることも考えられますが、子供に常に示す「題材名」を工夫してみてもはどうでしょうか。教科書にある題材名を変えてもいいと思いますし、教科書の題材名を残して「副題」を付けるということも考えられます。例えば、育成を目指す資質・能力「思考力、判断力、表現力等」を教師も子供も意識できるように、題材名「食べて元気に」に副題を付けるとしたら、どんなものが考えられるでしょうか。

生活の中から問題を見だし、子供にとって解決の必要がある課題が設定できたら、子供は進んで解決するための「計画」や「作戦」を考えます。そして子供は、その「計画」や「作戦」を実践しますが、はじめからすべてがうまくいくことばかりではありません。ここでその実践を評価し、改善していくことがとても大切です。「計画・プラン」であれば「A, B, C」と段階が進んでいく様子や、「作戦」であれば「ねり上げる」といった繰り返し改善する様子を表す言葉を含めることが考えられます。そして、子供にとって解決の必要性を高めるには、自分のこととして当事者意識をもつことや、家族のためにといった他者意識をもつことが効果的です。

以上を踏まえ、例えば「～プランABC…で、おなかも心も満足に～」や「～作戦をねり上げて、おいしいヘルシー家族に～」といったものはどうでしょうか。このような副題をつけることで、子供にとって課題解決の必要性が上がり、改善点を見つけた時に、繰り返し計画を立て直して実践できることを期待します。先生方も、子供の実態に応じた、効果的な題材名を考えていただきたいと思います。

教育センター 前田浩平 指導主事

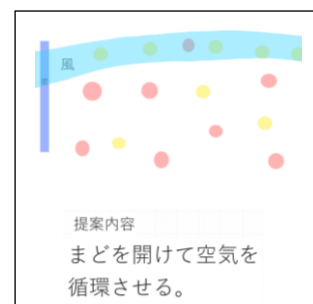
城北小 6年「すずしい住まい方で快適に」

【実践内容】

本学習では、暑い季節の住まい方について問題を見出して、様々な解決方法を考え、実践した。昨今の猛暑が続いている様子から、子供たちにとって身近な問題として捉え、取り組んだ。

（１）タブレットを活用した交流

校舎内外の涼しい場所の様子を写真に撮ったり、涼しく過ごす工夫をインターネットで検索したりし、調べたことをオクリンクを利用してまとめた。子供たち同士で交流するときに、写真や図などを使い、視覚的に分かりやすく説明できるようにした。



<交流で使ったメモ>

（２）日常生活での実践

交流したことをもとに、「すずしく過ごそう大作戦」として、自分たちで考えた工夫を日常生活で実践した。効率のよい通風を考え、教室の窓の開け方を工夫したり、風鈴やうちわを作ったりした。

【成果】

タブレットを活用して交流したことで、写真や図などを見ながら話し合うことができ、実際の場所に行ってみたり、実験をしてみたりする姿が見られた。そして、通風や直射日光が涼しさと関係していることを発見することができた。また、日常生活の中ですぐに実践できる機会を設定したことで、夏休みの間に家でもいくつかの方法を試してみたという感想もあり、子供たちが主体的に取り組もうとしていた。

（文責：杉浦 ゆみ）

曳馬小 発達支援学級 6年「ソーイングで生活を豊かに」

【実践内容】

本学習では、身近な布の袋について関心をもち、使う目的に応じた工夫を見つけることができる、自分の作りたい袋の大きさを確認することができることを目標としている。実際に作る袋がどの大きさになるのかをイメージできるよう、以下のように実践した。



（１）身の回りの袋の特徴を見つけよう

<新聞紙でトートバッグ>

給食袋や体操服を入れる袋の特徴を見つけ、ノートにまとめた。

（２）新聞紙でトートバッグづくり

教科書のQRコードを読み取り、新聞紙でトートバッグづくりの動画を見た。実際に作る袋の大きさになるように新聞紙でトートバッグを作った。

【成果】

身の回りの袋の特徴を見つける活動を通して、実際に作るときには、「まちを作りたい。」「入れるものの大きさに合わせて作るといい。」と、気付くことができた。

新聞紙でトートバッグを作成したことで、「教科書を入れるにはもう少し大きいほうがいい。」「肩にかけて持ち運びたいからひもの長さは長いほうがいい。」などと、実際に使うときのことを考えて作ることができた。

（文責：中川 結香）

第3回研修会 授業研究の見どころ

10月29日(水)14時より、第3回研修会を行います。今回は2つの会場に分かれて、授業を参観します。1～4部会は竜禅寺小学校、5～8部会は内野小学校へ御参加をよろしくお願いいたします。

<1～4部会>

6年「こんだてを工夫して ～心も体も喜ぶ「にこにこんだて」を考えよう!～」

竜禅寺小学校 大場 愛菜美 教諭

織部 由美 栄養教諭

本題材は、栄養を考えた食事について、1食分の献立作成に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、栄養のバランスを考えた1食分の献立を工夫することができるようにすることをねらいとしています。

題材計画の中では、学習のゴールに学んだことを生かした「成果発表食事会」を家族に向けて開催することを設定しています。家族が喜ぶ食事を作るために、栄養教諭から話を聞いたり、作成した献立を友達と共有して課題を見つけたりしながら行う活動を設定しています。

本時の見どころは、前時に自分が考えた献立を栄養のバランスや使う食品の組み合わせを意識して見直したり、友達の献立の良いところを見つけたりするところです。また、活動の際には、ワークシートやオクリンクプラスのカードを使いながら行っていきます。栄養教諭からのアドバイスも取り入れながら自分の献立をよりよいものにしていきます。どうぞ、御覧ください。

<5～8部会>

5年「食べて元気に ～おいしいご飯とみそ汁を作れるようになろう～」

内野小学校 高瀬 朱音 教諭

本題材は、食領域における児童の基礎的知識・技能だけでなく、食生活をよりよくしようと工夫する力や家庭生活での実践的な態度を育成しようと、題材計画を工夫しています。その中での見どころは次の2点です。

1点目は、身近な生活から課題をもち、実践的体験的な活動を取り入れた学習活動を通して、日本の伝統的な食事である「和食」のよさについて追究していく点です。だしの材料である煮干しやだし入り、だし無しの味噌汁を味わうことで、だしの役割やその特徴について気づき、生活をより豊かにするみそ汁作りの実践につなげていきます。

2点目は、生活に係る見方・考え方を働かせた深い学びにつながるように本時の学習計画を立てている点です。話し合い活動の前には一人学びの時間を設け、誰もが自分の考えをもち、課題解決に向かって充実した話し合いになるよう計画しています。また、内野小学校では、総合的な学習の時間にアイガモを使った米作りに取り組んでいます。今回は自分たちで生産したお米を用いて調理実習をすることも題材計画には含まれており、命のつながりや食べ物大切に作る気持ちを育むように題材全体をデザインしています。

子供が実践的体験的学習を通して、課題に対して自分事として向き合い、学び合う姿が見られるように工夫した本時の学習計画です。どうぞ、御覧ください。

【編集後記】

実践紹介では、暑い季節の住まい方について昨今の猛暑の様子を踏まえた視点を入れたり、実際に作る袋を新聞紙で再現して作るイメージを持たせたりと、子供たちがより身近な内容として学べる工夫がたくさんありました。第3回家庭科研修会の授業研究は、早い段階から計画を立てて、児童が主体的に取り組める授業の準備をして下さっています。どうぞよろしくお願いいたします。

上島小学校 鈴木 あゆみ